

創大通信教育部などで学び 研究者として企業改革に貢献

早稲田大学理工学術院創造理工学研究所
経営デザイン専攻特任教授

光國 光七郎

さん 創価大学通信教育部経済学部卒業

「日本の電機メーカーの業績不振がニュースになって久しいですが、その最大の理由は売れない在庫をかかえ過ぎるから。そうならないための在庫管理と事業構造改革が私の研究テーマです」と話すのは、早稲田大学理工学術院創造理工学研究所特任教授の光國光七郎さんだ。



みつくに：こうしちろう
一九五〇年新潟県生まれ。横浜市在住。六八年日立システムエンジニアリング入社、翌年に日立製作所コンピュータ事業部に転属。七八年創価大学通信教育部経済学部入学、八五年卒業。二〇〇〇年大阪大学大学院博士後期課程修了。博士（工学）。二〇〇七年日立コンピュータエンジニアリング転属。二〇一〇年日立グループを定年退職して早稲田大学理工学術院創造理工学研究所経営デザイン専攻特任教授。一五年同大学院特任教授。

光國さんは日立製作所でシステムエンジニアを約二〇年務めた後、サプライチェーンマネジメントを二二年にわたって担当。資材の調達から完成品を顧客に届けるまでの流れをいかに効率化するかを追究してきた。今を振り返り、「すべての始まりは創価大学通信教育部を卒業したこと。そして、学びと仕事との両立は生き方そのものですから、ぜひ挑戦してほしいですね」と語る。

六八年に高校を卒業して日立の子会社に就職。翌年、親会社に転属になったが、そこで学歴の壁を感じて創価大学通信教育部に興味を持った。先輩からのすすめがあったが、仕事との両立は困難と一旦は断念する。しかし、向学の思いは消えず、あるとき取り寄せた通信教育部のパンフレットの中の「恩師戸田先生から、様々な学問を教えてい

幾度か決意を新たにしたい
思い出の横浜港・山下公園にて

ただいた。文字



通り、人生の師と弟子との間に「信」を「通」わせた教育であった」との創立者の言葉に衝撃を受けた。卒業まで七年かかったが、創大の学位があったからこそ、大阪大学大学院博士後期課程に進学し、博士号を取得した。光國さんが卒業した後、夫人も創価大学通信教育部に入学。教育学

創価大学通信教育部は今年四月に開設四〇周年を迎えました。経済学部、法学部、教育学部の三学部四学科があり、卒業生は約一万八〇〇〇人を越えています。全国の一二会場ですクリーンが受講できるほか、インターネットを使った授業も導入しており、いつでもどこでも学べる環境を整えています。

部で社会教育主事の資格を得て、今も地域で嬉々として頑張っているという。

今年、創価大学通信教育部は開設四〇周年を迎え、インターネットの普及によって一段と学びやすい環境も整った。しかし、光國さんは熱く語る

「最も大事なのはスクーリングで教師と学生が直接的にふれあうことです」

「経営学の山城章教授をはじめ、先生方の研究室へ押しかけてはよく質問しました。厳しくも優しく接してもらったことはいい思い出です。クラスメートは向学心の高い人が多く、税理士や行政書士になり独立している人もいます。交流はずっと続いています。そうした一生の友達との出会いも通信教育部での大きな財産です」と。

